

KVK クリーンスリム 浄水器内蔵シングルレバー式シャワー付混合栓 KM371(Z) (各仕様共通) 施工説明書

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
尚、この施工説明書と取扱説明書、ご注文はがき、浄水カートリッジは、つり下げ袋に入れ、レバーハンドルに掛けて、必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

警告 この絵表示は、してはならない禁止の内容です この絵表示は、必ず実行していただく強制の内容です	湯水を逆に配管しないでください。給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。 	加工及び改造、市販浄水器の取り付け等の改造はしないでください。 	給湯に蒸気を使用しないでください。
	寒冷地仕様の場合 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 	配管などの解凍のため解凍機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。 	他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
注意 この絵表示は、してはならない禁止の内容です この絵表示は、必ず実行していただく強制の内容です	器具に強い力や衝撃を与えないでください。 	止水栓取り付箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検しやむい状態にしてください。 	給湯温度は60℃以下で使用してください。
	器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。 	点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。 	60℃を超える高温でご使用になると、カートリッジが破損する場合があります。

めっき部は、ぶつたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。 	カートリッジを落としたり、強い力や衝撃を与えないでください。 	シャワーヘッドの浄水出口は清潔を保つ為、汚れた手でさびたり、シャワーヘッドを水中に浸すような使い方はしないでください。
浄水を湯を流さず、水のみを流してお使いください。 	浄水カートリッジは取り付けず、つり下げ袋に入れたまま、水栓につき、お客様にお渡しください。お客様が使用開始する時点での取り付けになります。 	水道水および飲用可能な井戸水を使用してください。
凍結が予想される際は、一般仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に水を巻くなどして、凍結を防止してください。電池仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。 	水道水および飲用可能な井戸水以外の水を使用すると、故障や水漏れの原因になったり、体調を損なうおそれがあります。 	

取り付け前に

① 使用水圧 (A = (給湯機の最低作動水圧) + (配管圧力損失))

(1) 瞬間給湯機との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃ 給湯機温度調節: 高温 吐水温度: 42℃ ハンドル全開)
【比例制御式】 最低必要水圧: A+0.10MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)

(2) 貯湯式給湯機との組み合わせ
【給湯・給水圧力】 最低必要水圧: A+0.80MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)

② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。

③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。

④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。

⑤ 水圧が高い(0.3~0.75MPa)場合は、ストレートシャワーにて15~20秒2Lの容量を減らす程度の高圧になるよう、止水弁又はレバーハンドルで調節してください。

⑥ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。

⑦ 給湯機の給湯温度は、安全のため及びカートリッジ保護のため60℃以下に設定してください。

⑧ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。

⑨ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。

⑩ 高温になった器具や火気の近くでは使用しないでください。熱により変形したり、破損したりするおそれがあります。

⑪ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。

⑫ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。

⑬ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

寸法図

取り付け完成図と各部の名称

レバーハンドル
シャワーヘッド
本体
吐水切換ボタン
シャワー握り

分解図

仕様	A寸法	B寸法
銅パイプ 逆止弁付仕様	339	318
銅パイプ 逆止弁無し仕様	322	318
ブレードホース 逆止弁付仕様	415	384
ブレードホース 逆止弁無し仕様	402	384

1 キャップ	33 ナット
2 ピス	34 くい込みスリーブ
3 レバーハンドル	35 スリーブ
4 固定ナット	36 パッキン
5 カートリッジ	37 ナット
6 ピス	38 水抜きユニット
7 座金	39 逆止弁ジョイント
8 吐水口	40 シャワーホース
9 スリッパ板	41 逆止弁
10 本体	42 パッキン
11 シートパッキン(白)	43 シャワー握り
12 銅パイプ固定プッシュ	44 ジョイント
13 フラジ	45 プレートホース
14 輪パッキン(黒)	46 プレートホース
15 スリッパ板	47 ジョイント
16 フラジ	48 パッキン
17 省施工ナット	49 保護キャップ
18 ホースガイドA	50 クイックファスター
19 ホースガイドB	51 ジョイント
20 キャップ	52 ジョイント
21 カプラーユニット	53 逆止弁
22 水抜きユニット	54 ナット
23 パッキン	55 逆止弁ジョイント
24 シャワーホース	56 逆止弁
25 ストレーナ	57 パッキン
26 シャワー握り	58 ジョイント
27 浄水カートリッジ	59 プレートホース
28 シャワーヘッド	60 ジョイント
29 パッキン	61 保護キャップ
30 泡沫器	62 クイックファスター
31 シャワーフェイス	63 ジョイント
32 銅パイプ	64 エコノッチユニット

取り付け手順 1

浄水カートリッジについて

【△注意】 施工の時点では、浄水カートリッジは取り付けず、つり下げ袋に入れたまま、水栓につき、お客様にお渡しください。お客様が使用開始する時点での取り付けになります。施工の時点で取り付けて置くと、浄水カートリッジが破損し、飲用に適さない水が流出して体調を損なうおそれがあります。

1 給水管内の清掃 配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け
 給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。水受けタンク又はトレーを設置する場合は、水受けタンク又はトレーの寸法をご確認の上取り付けください。止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付 止水栓
水抜き栓付 止水栓

3 本体の仮固定 (ブレードホース仕様の場合は固定)
 取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、正面シールが正面向上になるように本体を固定します。銅パイプ仕様の場合は仮固定し、ブレードホース仕様の場合は完全に固定します。その際、本体に貼り付けてあるシートパッキン(セパレート紙)をはがして固定してください。又、銅パイプ固定プッシュがしっかりとハマっていることを確認してください。外れている場合は、しっかりとめ込んでください。

取り付け穴φ36~38

正面シール
シートパッキン(セパレート紙)をはがして前面テープで固定
銅パイプ固定プッシュ(白)はまっています
輪パッキン(黒)
スリップ板
フランジ (又は省施工ナット)

【△注意】
 ・セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙がはがさず固定した場合、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
 ・シャワーヘッド、レバーハンドルを締め付けますと破損のおそれがありますので、これらは持たないでください。

【△注意】
 ・省施工ナットはねじ部に差し込むだけでは完全に固定できません。フランジ又は省施工ナットの締め付けは、専用工具G11(別売)で確実に行ってください。しっかりと締め付けられずに緩んだり、ガタツキが発生し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

止水栓との接続 (銅パイプ仕様の場合) ①

4 銅パイプの配管
 止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。

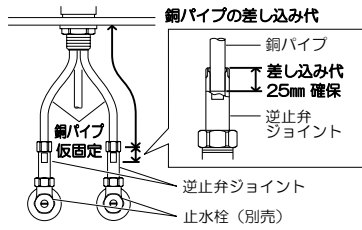
【△注意】
 ・図2のような無理な配管はしないでください。配管の掛けや亀裂や破損の原因となります。
 ・銅パイプの抜け防止の為、給水・給湯配管は動かないように固定してください。

【お願い】
 銅パイプを曲げる際、銅パイプ固定プッシュがはずれないように注意してください。

止水栓との接続（銅パイプ仕様の場合②）

4-2 止水栓との接続（逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。）

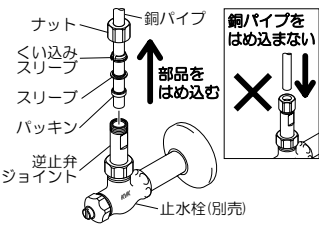
① 逆止弁ジョイントを止水栓に仮固定した後、銅パイプの必要な長さを測り、切断してください。
このとき、パイプの差し込み代25mm確保してください。
【お願い】銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。



② 逆止弁ジョイントから図の部品をはずします。ナット、くい込みスリーブ、スリーブ、パッキンの順に銅パイプにはめ込みます。

【△注意】

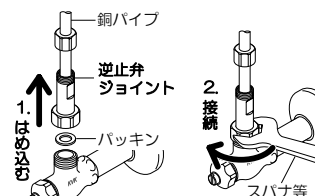
- 部品をはずして銅パイプにはめ込んでください。部品をはずさない状態で銅パイプを逆止弁ジョイントにはめ込むと、パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 部品は正しくはめ込んでください。特にパッキンがねじれた状態ですと、漏水の原因となります。



③ 逆止弁ジョイントを銅パイプにはめ込んでから、止水栓と接続します。

【△注意】

- 接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安：約2000N・cm）
- 管内の接続管（ニップル等）には、逆止弁ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

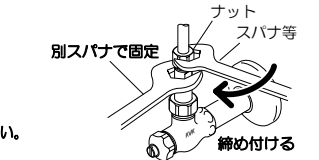


④ ③で仮固定していた本体を、工具で確実に締め付けます。

⑤ 逆止弁ジョイントが共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しながらナットを締め付け、銅パイプと逆止弁ジョイントを接続します。

【△注意】

- 接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安：約2000N・cm）



止水栓との接続（ブレードホース仕様の場合）

4 止水栓との接続（逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。）

① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】

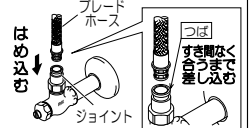
- 接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安：約2000N・cm）
- 管内の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。



② ブレードホースをジョイントにはめ込みます。ブレードホースのつばとジョイントのつばがずき間なく合うまで差し込んでください。

【△注意】

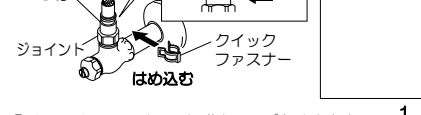
- ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓元で曲げたりしないでください。（A図）急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 上下戻り配管はやめてください。（B図）ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
- ブレードホース同士の接触及び、壁などへのブレードホースの接触は避けてください。接触部から亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- ブレードホースは切断しないでください。



③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめします。

【△注意】

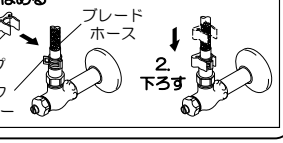
- ブレードホースを上引っ張って、抜けないことを確認してください。しっかりとまわっていないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。



④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。この時、保護キャップはブレードホースにはめしてから、クイックファスナーまで下ろします。

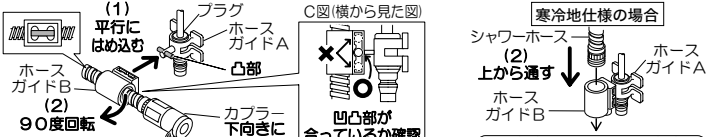
【△注意】

- 1. はめる
- 2. 下ろす



シャワーホースの接続

- 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。
【お願い】ホースガイドBは壁面に固定しないでください。
- (1) ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめます。（ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様の場合は同梱しています。）
(2) （一般地仕様の場合）カプラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。（寒冷地仕様の場合）ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースをホースガイドBに上から通します。



【△注意】

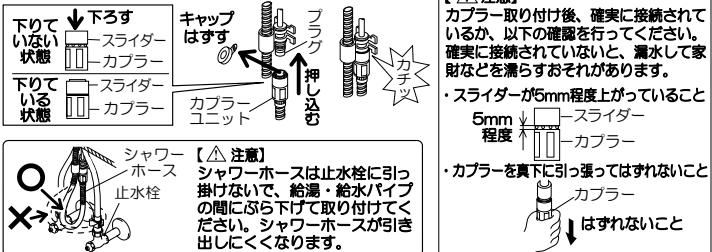
- 固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。B図のように、銅パイプ又はブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。シャワーホースが破損し漏水により財産などを濡らすおそれがあります。
 - （一般地仕様のみ）カプラーとホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。（増し締めトルクの目安：約100N・cm）
- 【お願い】ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。（C図）

ホースガイド取り付け後、同梱の水抜きユニットをパッキンをはさんでシャワーホースに接続します。その際、シャワーホースをプライヤー等で固定して締め付けてください。

【△注意】

- 締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安：約200N・cm）
- シャワーホースをねじらぬでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
- シャワーホースのセレージョン部以外には工具をかけないでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
- 本体のプラグにカプラーを押し込み前、カプラーと水抜きユニットの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。（増し締めトルクの目安：約100N・cm）

③ カプラー（寒冷地仕様は水抜きユニット）のキャップをはずし、スライダを下に下ろしてから、本体のプラグをカチッと音がするまで押し込みます。（スライダーがすでに下りている場合もあります。）取り付け後、カプラーを引っ張ってはずれないことを確認します。



【△注意】シャワーホースは止水栓に引っ掛けず、給湯・給水パイプの間にはめ込んで取り付けてください。シャワーホースが引き出しにくくなります。

シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。ホースとの接続の銅管部を曲げることに左右に振ることができません。

6 ステッカーの貼り付け 使用方法ステッカーを見やすい位置に貼り付けてください。

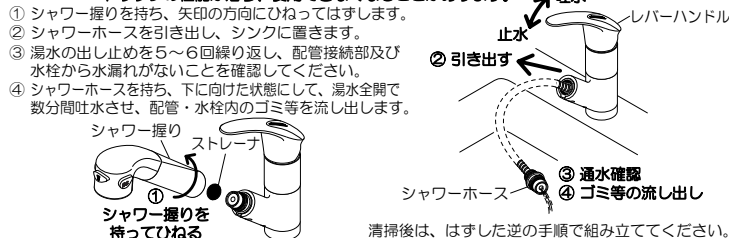
浄水カートリッジについて

- 【△注意】施工が完了しても、浄水カートリッジは取り付けず、つり下げ袋に入れたまま、水栓につき、お客様にお渡しください。お客様が使用開始する時点での取り付けになります。施工の時点で取り付けておくと、浄水カートリッジが破損し、飲用に不適な水が流出して体調を損なうおそれがあります。

取り付け後の点検と清掃

通水確認・ゴミ等の流し出し

- 【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5〜6回繰り返して、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。通水確認は、浄水カートリッジを取り付けない状態で行ってください。浄水カートリッジを取り付けた状態で通水確認をして、使用しないまま放置した場合、浄水カートリッジの性能が落ち、使用できなくなることがあります。



故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	取扱説明書7ページ「流量の調節方法」
	シャワーホースにゴミ等がつまっていませんか ガス給湯機と組合せて使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか シャワーフェイス・ストレーナ・泡滅器は壊れていませんか	シャワーホースのゴミ等を流し出す ガス給湯機の能力を適正能力にセットする シャワーフェイス・ストレーナ・泡滅器に水をかける	8ページ「浄水カートリッジの交換」
高温しかない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	取扱説明書7ページ「流量の調節方法」
	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	取扱説明書7ページ「流量の調節方法」
低温しかない	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	取扱説明書7ページ「流量の調節方法」
温度調節がうまくできない	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
	シャワーホースにゴミ等がつまっていませんか シャワーホースにゴミ等がつまっていませんか	シャワーホースのゴミ等を流し出す シャワーホースのゴミ等を流し出す	8ページ「浄水カートリッジの交換」 8ページ「浄水カートリッジの交換」

【△注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や漏水の原因となります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。